



撮影：西山芳一（表紙、並びに当ページ）

稚内北防波堤ドーム

北海道稚内市

最北端の街、稚内。オホーツクの海に突き出るような港の埠頭に半ドーム型の防波堤がある。この稚内北防波堤ドームの竣工は一九三六年。それまでの五財ほどの防波堤は高波の越波を易々と許し、波にさらわれた人が海に転落する事故も相次いでいた。日露戦争の終結に伴い、稚内港が南樺太との連絡拠点として重要性を増したこともあり三年の歳月をかけて建設されたのがこの古代ローマ建築を彷彿とさせるドーム型有覆防波堤だ。設計は北海道大学を卒業してわずか三年しか経っていない土谷実。稚内築港事務所の平尾俊雄所長は「庇」を有するデザインを示唆し、土谷に設計を一任した。わずか二カ月で設計を終えた土谷は着工後も現場に立ち施工の指揮を執ったという。一九三八年には延伸した鉄道の新駅「稚内棧橋駅」が開業。乗客はこのドームに護られながら連絡船へ乗り継いだ。

終戦とともに樺太との航路が廃止されるとドームは主に貯炭場や資材倉庫として利用される。一方で港湾構造物としての健全性が問題となったが地元市民の強い要望に後押しされ一九八〇年までに

大改修が行われ、現在は街のシンボル、またCMや映画のロケ地として名を馳せ、多くの観光客を迎えている。

とは言うものの昨年末の撮影時、大寒波に見舞われた極寒の港を訪れる人影はほぼなかった。それでも停泊する船をドームがしっかりと防御している。港湾インフラの本来の姿だ。巨大な動物の肋骨を思わせるドーム内の回廊に立つと、鉄筋コンクリート造の防波堤としては前例のない意匠に苦汁をなめながら、そして意気揚々と挑む弱冠二六歳の土木技師の熱い想いと矜持が豪雪も融けよと言わんばかりに響いていた。完成から八〇年余り、今こそ若き技術者に訪れてほしい土木のレガシーだ。



「風雪に耐える」という形容がこれほど相応しい構造物はないだろう。70本の円柱に支えられた総延長427m、高さ13.6mの壮麗な防波堤は2001年に北海道遺産、2003年度土木学会の推奨土木遺産に選定されている。